

第5話 素晴らしき日光！は悲しい結末の前兆？ の巻

快晴の朝を迎えて、気分まで浮き立ちます。巻貝状態のめぐさんに声をかけいざ朝風呂へ。葉を落とした木々の間に覗く煌めく湖は、最高の「お目覚め」となりました。

出発の準備を整えてロビーで写真撮影の開始、ここで私はめぐさんを困らせてしまいます。私たちは仲間のHPで旅行やオフ会などの写真を楽しんでいます。そこには、誰が誰だかわからない状態と言う安心感や曖昧さがありますが、少人数ではそれが難しいのではないかと。私が思わず口にした不安に、めぐさんは知恵を絞ってくれました。ロビーの胡蝶蘭の前で4人の手を撮るのです。ここから私たちが車に乗り込むまで、支配人さんがカメラマン役を引き受けてくださいました。3個のカメラをぶら下げて大奮闘、最後の最後まで行き届いたもてなしを見せてくれたホテルでした。



二日目のスタートは中禅寺です。湖畔のお寺は休日とあって、まだ10時過ぎと言うのに観光客が大勢集まっています。山門をくぐるとありました延命の水、つい飲んじゃうお年頃の4人。重厚な佇まいの鐘楼に登り「3つのお願い」を聞いてもらい、いざ本堂へ。お目当ての「立ち木観音」は生きている木つまり根を張ったままの木を彫刻した、6メートルの大柄な観音様で、男体山に未だに残る山津波の爪跡の中ほどに在った、二荒山神社に祭られていたものが神社と共に湖底に沈み、遠く離れた歌が浜に傷一つ無く流れ着いたと言う、不思議な謂れをお持ちです。失せ物が返る、尋ね人が帰るなど霊験あらたか、物忘れが加速する私は真面目に手を合わせなければなりません。皆もね。お気づきの方もあると思いますが、昔の神仏一体の令で、日光は神社かと思えば中にお寺があったりお寺かと思うと神社があったりで、かなり面食らいます。

中禅寺湖と男体山を一望できる展望台を経て、竜頭の滝。滝壺に流れ落ちる二筋の滝の真中に楓が枝を広げています。真っ赤な衣は脱いでいましたが枯れた風情もなかなかで、負け惜しみでなく美しい滝でした。ここで蕎麦とお団子の昼食、滝を目前にしての食事は贅沢なものです。竜頭の滝を上流からも眺めてみます。日光国立公園には数多くの美しい滝がありますが、豊富な水源と急峻な地形がこの恵みをもたらすのでしょうか、勢いの絶え無い流れを眺めていると自然の不思議を感じずにいられません。

続いて戦場ヶ原へ。神々の戦場の跡は、その戦の荒々しさのあまり幾世紀を経ても木々を育てることが出来ずただ一面の草原。黄金色がどこまでも続く草紅葉は圧巻でした。麗

さんはあっちでカシャ、こっちでカシャ。何しろ普通の倍ぐらい撮れるカメラをお持ちですから余裕です。世にも悲しい結末が待っているとは、この時誰も想像すらしていませんでした。

高德牧場で右手に温かい牛乳、左手にめちゃくちゃ美味しいアイスをもって、ご機嫌な一時を過ごし、湯の湖を目指します。 続く